

国際センター

2022この一年

ごあいさつ センター長 青 晴海

日頃より島根大学の国際交流事業にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年も、感染拡大防止の観点から留学生との交流会を中止させて頂き、それに代わりまして本活動レポートをお届けすることといたしました。

本年度は新型コロナの流行が落ち着きをみせたことから、年度当初から留学生が来日することとなり、本年 5 月 1 日時点で 222 名の留学生と、新型コロナ前の人数にまで回復してきました。新型コロナに配慮しながら対面授業も開始しており、大学としての本来の姿に戻りつつあります。また、留学生の活動としては、日本語教育やビジネス日本語教育の充実、近隣の高校や地域団体との交流活動に加え、地域就職に関するセミナーを開催し、地域就職に向けたキャリア支援を積極的に行っています。来年 4 月は、学部や大学院への留学生の入学者や、交換留学生受け入れに加え、初めて、首都圏の大学（帝京大学）から 20 名弱の留学生を半年間受け入れるなど、新たな大学のグローバル化へ取り組みも計画しています。

他方、本学学生の交換留学生も新型コロナに配慮しながらも派遣が再開され、本年度はこれまでに最大の 10 名の交換留学生が、アメリカ、フランス、タイ、韓国などで学んでいます。また、海外インターンやボランティア活動に関心を持っている学生も増えており、来年度以降の積極的な海外展開にも期待しています。本年度は地域就職に関心ある学生に対する県及び県内企業が支援する海外留学奨学金事業が開始され、留学奨学金の選択肢も拡大してきました。島根大学は、引き続き学生交流を通じた大学のグローバル化を積極的に推進していきます。

本レポートは、留学生や日本人学生の留学や学生生活についての現状をお伝えするものです。本学のグローバル化への、引き続きのご支援・ご理解を賜れば幸いです。

島根大学 グローバル化推進本部 国際センター

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL: 0852-32-9756

Email: international@office.shimane-u.ac.jp

目次

*ご挨拶	1
*トピック「地域就職の潮流」	3
*留学生の声	4
*日本人学生の声	8
*国際センター関連2022年の出来事	10
*国際交流データ	12



島根県内の外国人は近年増加傾向にあり、特に、最近の傾向としては、国籍の多様化が指摘されています。出雲地域のブラジル人コミュニティについては周知の事実ですが、ベトナム人の方々も地域の経済活動にとり重要な役割を担ってきています。本学に留学している学部生や大学院生の中には、毎年 10 名を超える留学生が日本国内での就職を希望していることから、本学は、このような学生に対する日本での就職のための支援を行ってきました。特に、地域での就職を希望する場合には、一定レベル以上の日本語能力が必要となるため、日本語補講を開設して日本語資格を取るためのコースを設置するとともに、高度な日本語を使える留学生向けのビジネス日本語講義も行っています。また、地域に就職した元留学生による、現役留学生向けの就職セミナーを実施し、地域就職の課題や方法について指導をはじめました。

本年度実施した留学生の地域就職の事業としては、中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携したインド IT 人材事業が挙げられます。昨年までは、圏域市長会や本学との関係が深いインド・ケララ州の大学から 10 名程度を選抜して日本で 2 週間の研修を行い、地元企業への就職を進める活動を行ってきましたが、本年度からは 4 名の大学院生が半年間本学に交換留学し、その間、企業とのマッチングを行うことで地元就職を促進する事業が開始されました。結果、初年度の本年度は 4 名中、2 名が地元企業へ就職することとなりました。本事業は、来年度に向けても自治体や地元企業と連携して制度改善を行いながら、地域と世界をつなげる取り組みを積極的に展開していきたいと考えております。

最後に、本学に留学する学生が地域での就職を考える際には、この地域が好きだ、ここに住みたい、という想いも重要な判断基準となります。本学では、地域への理解を深めるための、住民との国際交流は非常に重要な要素であると考えており、これまでも交流活動を進めてまいりましたが、今後も、皆様方との関係を一層深めていきたいと考えておりますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



松江市内で行われた留学生向け地域産業研修の様子

留学生の声

「研究活動と大学生活」

人間社会科学研究科 常明星（中国）

私は 2021 年 4 月に人間社会科学研究科へ入学しました。専門分野は、東洋史です。研究では、五代から北宋前半(907-1070)における中国と日本の交流について研究しています。これまでの研究では見落とされていたことが多かった、この時代における宋と日本の交易を集中的に研究しています。現在は修士論文を書きながら、大阪大学の博士課程に進学できるように頑張っています。今後も、学会に積極的に参加し、よい論文を多くかけるように頑張っていきます。また、これらの研究を通して、今後の中国と日本の交流に少しでも貢献できるようにと思っています。

日々の生活では、研究室と図書館を利用して勉強するのはもちろん、大学や中国留学生学友会の活動に参加して多くの学生と交流しています。また、中国語を教えるボランティア活動等に参加することで日本の子供たちとの交流もしています。それ以外にも、大学以外の日本の社会も学ぶためにアルバイトをするなど、毎日楽しく過ごしています。



「島根大学での研究と地域交流活動」

自然科学研究科 Amanda Perera（スリランカ）

こんにちは！スリランカ出身のアマンダです。私は、知り合いがとても良いところだと勧められたので、この大学への留学することに決めました。島根大学とは 2014 年までさかのぼる縁がありますが、文部科学省の奨学生として留学することになったのは 2020 年です。そして、私はこの秋に修士課程の自然環境システム科学専攻を修了しました。修士課程の 2 年間、「スリランカ沿岸ラグーンの古環境変化の地球化学的評価」というテーマで研究を行いました。学科のスタッフから受けた支援やアドバイス、学科内の設備は、研究活動を行う上で非常に役立ちました。また、国際課の指導やサポートにもとても感謝しています。

この 2 年間は、新型コロナの大流行で大変な思いをしましたが、松江東高校や市内の小学校での国際交流、英語教育プログラムにも参加することができました。また、教育学部の学生たちに自分の国や文化について話す機会もありました。市民の皆さんを対象にした料理教室を開いたこともあります。



私は、世界各地から来たたくさんの留学生と知り合いになり、さらに彼らが環境に慣れるようできる限り手助けもしました。県内を旅行した際には、さまざまな活動に参加しました。私は島根県の、のどかで落ち着いた雰囲気が好きです。集中して勉強するのに最適な環境です。これから入学する留学生には、一生懸命に勉強し、新しいことに挑戦し、大学が提供する多くの機会を最大限に活用することで、ここで過ごす時間を楽しんでほしいと伝えたいです。

「研究活動、大学生活、地域交流」

自然科学研究科 Doumbouya Mamady (ギニア)

私はギニア出身のママディ ドゥンブヤです。所属は自然科学研究科で、研究テーマは「アズキにおいて湿害条件下における窒素施肥の効果」です。

■研究活動について:

私の研究活動は、先生とのフィールドワークが中心です。ぜんざいの発祥の地である島根では、アズキは重要な作物です。しかし、この作物は湿害ストレスに弱いのです。私たちは、湿害がアズキに及ぼす影響を調べるために、3種類の処理でアズキの実験ポットを作りました。そして、いくつかの農業生産に関する数値(草丈など)を測定し、乾燥重と種子収量を測定するためにサンプルを採取、ここから得られたデータをエクセルで分析しました。研究活動では、JICA の会議やセミナーに参加したほか、毎週水曜日には研究室の学生全員で大学の試験場の田んぼでフィールドワークを行っています。



■大学生活について:

私の大学生活はとてもアクティブで楽しいものです。アパートに住んでおり、時々自炊をするほか、大学のカフェテリアや外のレストランも利用しています。そば、うどん、お好み焼き、すき焼きなど、日本の食べ物がとても好きです。また、私にはたくさんの外国人や日本人の友達があります。みんなとても親切で、声をかければいつでも助けてくれます。大学ではバスケットボールのサークルに入っていて、毎週日曜日と火曜日に練習試合をしています。図書館には英語の本があまりないのですが、先生にお願いすると係の人がどんな本でも持ってきてくれます。



■交流活動について:

私は、高校生との交流を 2 回経験しました。一つは研究室で行ったもの、もう一つは松江東高生との交流です。交流会では母国紹介に加え、ギニアのお祭りについて話しました。そして、10月28日に八束学園で行われる大学関連の交流活動にも参加します。

島根大学は、留学生が研究するうえで最高の場所です。私は他の留学生にも、島根で人生の最高の瞬間を経験するためにこの大学に来ることを勧めたいです。



「出雲キャンパスでの学生生活」

医学系研究科 Puja Dey (バングラデシュ)

皆さん、こんにちは。私は島根大学医学系研究科博士課程 4 年(産科婦人科学)の、プジャ・デイと申します。まず、このような執筆の機会を与えてくれた島根大学に感謝します。私にとって、この上ない喜びです。

素晴らしい環境の中、私はのびのびと研究することができており、専門分野に関する知識を深めることができました。当初の予定どおり、今年の 3 月の論文発表をもって博士課程の研究は無事に終了しました。また、指導教員の配慮により、他のプロジェクトに取り組む機会も得られました。現在は、この研究の最終審査に向けて準備を進めているところです。

日々の生活では、大学、特に研究室で過ごすことが多いですが、国際交流パーティーや日本のお祭りへの参加など、教室の外でも様々な経験をすることがありました。コロナ禍で生活が困難なときでも、安全な行動範囲内で勉強し、楽しいキャンパスライフを送ることができました。私は今、島根県出雲市の魅力ある自然の美しさ、穏やかで静かな安らぎの環境の恩恵を受けて、心の底から自信がわいてきています。

私は島根大学生という家族の一員としてとても満足しており、この大学にどれだけ感謝しているか、言葉では言い表せないほどです。



「私の日本語上達法」

自然科学研究科 Makreloufi Kheira (アルジェリア)

アルジェリアの大学を卒業後、いつか日本に行くために日本語の勉強を始めました。インターネットが唯一の方法でした。YouTube の日本語学習チャンネルや日本人のユーチューバーチャンネル以外にも、好きな日本人俳優やアイドルのドラマ、映画、PV メーキング、バラエティー番組などを見て日本語を学びました。日本語の勉強が趣味になるくらい毎日楽しみながらできる、最高の勉強法でした。この勉強を通じて、生きた日本語会話や日本の社会生活・文化も分かるようになりました。

独学での日本語学習は6年間でしたが、その間会話の練習機会はありませんでした。でも日本に来てからは、自分がどこまで話せるかを試すために英語を使わずに日本語だけで話すようにしました。最初は日常会話で使われる言葉が新鮮で、全部理解するのが難しかったです。でもその言葉を毎日何回も聞き、大学の日本語上級クラスで勉強することで、会話とリスニングのスキルを伸ばすことができました。私の経験から、別の国で日本語の独学を長年しても会話の練習や生活をしなければなかなか身につきませんが、日本にいればもっと早く習得でき、短期間で上達することが経験からわかりました。



「地域への就職」

自然科学研究科 修了 Padinharayil Athira (インド)

私はインドのラジャギリ工科大学からの交換留学生として、島根大学に留学していました。コロナ禍において来日できたことは、私にとってまさに奇跡で、2022年4月に島根に到着してから、5ヶ月間の大学生生活を送りました。私は自然科学研究科に所属していました。ミア・リアズ・ウル・ハック先生をはじめ、日本でお世話になった教授や教員の方々には本当に感謝していて、思い出に残る日々を過ごすことができました。ミア先生は、あらゆる面で本当に親切で協力的で、私の研究を丁寧に指導してくださいました。

松江市長および米子市長との会談の機会をいただいたことで、日本の文化と外国人に対する敬意についてより深く理解することができ、大変感謝しています。また、株式会社ブレイブスタジオと株式会社ERISAの2社でインターンシップをして、私の専門分野であるITに関する知識を広げることができました。これらの企業では、日本での働き方やビジネススタイルについて学びました。その結果、株式会社ERISAへの就職が決まり、本当に嬉しく思っています。今後、日本の労働文化や伝統についてさらに学びたいです。

宍道湖に沈む夕日の静謐な美しさや、歴史を物語る松江城の風景は、とても感動的です。堀川遊覧船で城を一周しながら船頭さんの歌を聴いたことは、日本での思い出としてずっと心に残っています。



島大アンバサダ



国際センターは、本学外国語教育センターと協働で、海外から大学を訪れるゲストを英語でおもてなしする「島大アンバサダ（大使）」を組織しています。アンバサダの学生は来客対応に備え、英語力向上のための研修や大学・地域の知識をつける活動を行っています。

日本人学生の声

「島大アンバサダや国際交流活動を通して」

総合理工学部 山本遼伍

私はアンバサダの活動を通じた海外のゲスト対応や、沢山の外国人留学生との交流を経験してきました。その中で、ゲストの方々と談笑をしたい、学生等に話しかけたいと思っても声に出来ないことがあり、それを引け目を感じることもありました。実際、私が海外に行く際にはできるだけ現地の方と交流し、コミュニティに入って相手の文化に精通したいと考えるのと同様に、日本に来訪される留学生(やゲスト)の方も日本や日本人の事について知りたいという思いが根底にあるように思います。そのため国際交流では、何よりもまず自分の国や出身、大学等といった外よりも内の理解を深めた上で発信することが大切であると考えます。一方で、挨拶程度でも知っているかどうかで相手へ伝わる印象は大きく変わるといえる出来事が多々あったので、声をかける際には相手の国について調べる事も習慣にしたいです。留学生の友達など海外の人との交流を通し、相手の国や文化についての理解を深められることはもちろん、自分の国について異なる視点から物事をみたり、自分自身の理解を深めたりすることができる事を学びました。



それでも、毎度少し時間がたち感じるのは、これらの経験がただの良い・悪い思い出になっているのではないかと感じます。成長には痛みが伴うという言葉をよく聞きます。アンバサダの活動だけでなく、普段留学生の友達と遊ぶ際にも、沢山の気づきや反省点があるにも関わらず、フィードバックを後回しにし、結局ただの思い出になってしまっていると感じることもありました。

最後になりますが、私が国際交流に限らず人と接する際に大切にしている言葉があります。

「仇も情けも我が身から出る」。

これには、人から恨まれたり愛されたりするのは、全て自分自身の普段の心がけや行い次第であるという意味があり、私にとって座右の銘となる言葉です。心から相手を思い、真摯な対応を心がければ、自然と自分の周りには素晴らしい人たちが集まってくると身をもって体感しています。そして、そのような仲間を持つ事は、人生をも変えると信じています。今後は学内外での交流を通し、知識や語学力を身につけるだけでなく、経験から反省し、改善点を見つけることで、少しずつ人間性の面でも成長して行けるように精進したいです。

拙い文章でしたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。



フランス留学レポート

法文学部 栗田妃奈アルシャド (フランス・オルレアン大学)

フランスに来てから一ヶ月が経ちました。学校もスタートし、「やっと留学が始まった！」という感じが出てきました。学校には本当に多くの日本人が留学しに来ていて、私のクラスも14人中5人が日本人です。ほかの生徒は、イラン、ウクライナ、ベトナム、ベネズエラ、エジプト、スーダン、と非常にインターナショナルな環境の中でフランス語を勉強しています。中には学生だけではなく、社会人や移民などそれぞれが全く違う境遇で、自分が留学できていることのありがたみや関わることが無かったら知らなかっただろう多くの考え方や物事を知ることができてきます。



ホストファミリー、先生、クラスメイト、クラス外の友達に恵まれ毎日日本当に楽しんでいます！ただストライキで公共交通機関が動かなくなり授業に行けない・テストが受けられないなんてこともありました。日本人からしたらとても驚くことですがフランス人にとっては当たり前のことのように、またまたそれにも驚きました。本当に毎日毎日新たな考え方や国民性を目にすることができて、フランスに来たからわかる日本の良さも悪い点も見つけることができ楽しいです。これからもたくさんの人と関わって多くのことを学んでいきたいです。

アメリカ留学レポート

生物資源科学部 F・T (アメリカ・アーカンソー大学)

専門である植物の勉強をしながら海外で生活してみたいという思いから、アメリカ南部にあるアーカンソー州のアーカンソー大学に留学させていただいています。

アーカンソー州は自然が雄大でとても美しい場所です。Southern Hospitality という言葉があるように、アメリカ南部には思いやり文化があり、会う人全員がとても優しく親切です。日本人でもほかの人達と同じように普通に接してくれるので、とても過ごしやすく感じます。また、留学生向けにキリスト教のボランティアの方が食事、ふとんやライト、ポットなどを無料で貸してくれたので生活基盤が整い助かりました。



僕はアメリカに来てすぐにコロナになってしまいましたが、差別されるどころか隔離中に寮のみんなが食べ物やメッセージをくれて友達の温かさが身に沁みました。

大学はとても大きく、一つの町のようになっていて、25000 人が入るフットボールスタジアムや陸上、バスケ、サッカーなどスポーツの施設や、ジムやプール、ボルダリングやカヤックなどほとんど何でも体験できるのでよく運動をします。また、ハイキングとサイクリングのトレールや川が多いのでネイチャーアクティビティもしています。大学は新旧の校舎と自然が調和するととてもきれいなキャンパスで、ここで学が毎日とても充実しています。



友達と話すと、食べ物や健康、宗教、その他些細なことまで日本と考え方が違うことに気づき、常識を疑ういい機会になっています。アメリカの社会は自分の性格によくあっていて、毎日楽しく刺激的な生活をさせていただいています。

国際センター関連 2022 年の出来事

1月	11日	青山学院大学生とのフェアトレード交流会	
	19日	冬季特別セミナー(ゲスト:元外務事務次官 藪中三十二氏)	
2月	6日	ベトナム留学生同窓会	
	7-16日	カンボジアオンライン研修(グローバルイシュー実践海外研修)	
	14-25日	令和3年度春季グローバル課題解決型オンライン研修	
3月		〈国内〉外国人新規入国制限緩和:留学生等を優先的に,入国上限が1日5000人となる。	
	25日	第一回県内卒業生(留学生)オンライン連絡会	
	29日	留学生向け地域産業研修会(竹内豊店)●	交換留学生続々入国
4月	23日	留学生と松徳学院生との交流会①	
5月	16-20日	しまだい留学 WEEK● ～グローバルセミナー(16日) ～留学生と松江東高生との交流会(19日)	
6月	18日	留学生と松徳学院生との交流会②	
	30日	第1回留学生のための就職セミナー●	
7月	4日	医学部生と留学生の交流会	
	19日	海外安全対策セミナー ・動画「島根大学のグローバル教育の現状について」制作	
8月	5日	グローバル人材育成支援事業 奨学金説明会	
	16日	Bangladesh 国立農業研究所関係者来訪●	派遣交換生続々入国
	30日	釜山大学校関係者来訪	
	31日～	カンボジアオンライン研修(グローバルイシュー実践海外研修)(～9月9日)	
9月	7-10日	留学生対象「伊野国際ワークキャンプ」(出雲市伊野地区)	交換留学生続々入国
10月		島根県グローバル人材育成支援事業に関するコミュニティ開始	
	5日～	フランスオンライン海外研修(～12月4日)	
	11日	〈国内〉外国人入国者数の上限が撤廃される。	
11月	1-30日	島大グローバル月間	

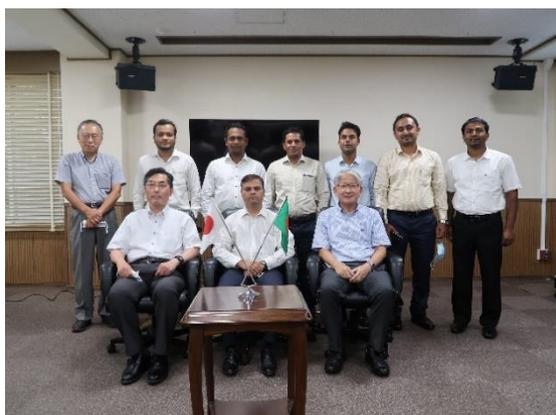
国際交流活動へのご協力をありがとうございました。



● 3月29日 留学生向け地域産業研修



● 留学生のための就職セミナー



● バングラデシュのゲスト来訪



● しまだい留学WEEK2022の様子

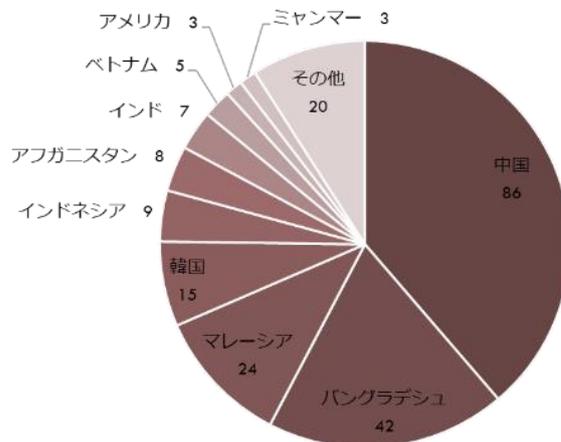
国際交流データ

▶ 留学生数

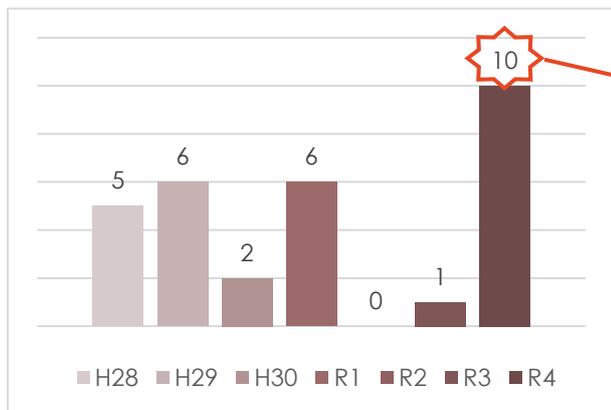
▶ 留学生数



▶ R4 年度内訳



▶ 海外派遣交換留学生数



令和4年度過去最多！

派遣先:

アメリカ, フランス, 韓国, タイ, ドイツ

▶ しまだい留学 WEEK2022 参加者数

イベント・セミナー	学生	教職員	学外
国際センター主催イベント	168	32	22
その他イベント	348	53	3
合計	516	85	25

